瑞穂中学校だより

【学校教育目標：ふるさとを愛し
心身ともにたくましく 主体的に学ぶ生徒の育成】

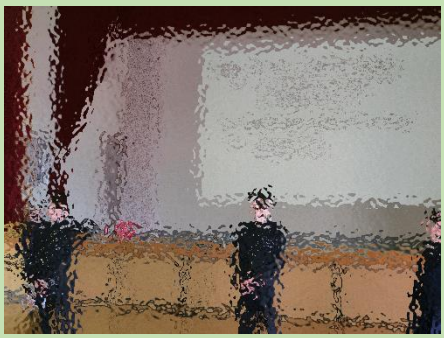
令和7年3月5日（水） NO. 28 文責：校長 柏原 哲郎
HP アドレス https://www.unzen.ed.jp/mizuhochu

おめでとうございます

本校の校医を30年以上勤めていただいている**「よこた医院院長の横田 美登志 様」**が、長崎県学校保健会より**「学校保健特別功労表彰」**並びに長崎県教育委員会より**「長崎県教育功労表彰」**を受賞されました。大変おめでとうございます。長きにわたり本校生徒の健康診断をはじめ、生徒の健康面での指導・支援をしていただき感謝申し上げます。特に、コロナ禍においては適切なアドバイス等をいただき大変助かりました。まだまだコロナ等の感染症の心配が続きそうです。今後もよろしくお願いいたします。

生徒集会&3年生わくわくクイズ

2／25（火）に、生徒集会がありました。生徒集会では各専門部長等が2月の反省と3月の目標について発表しました。新生徒会が船出して1か月以上が経過し、少しずつ慣れると同時に責任の重さも感じながら頑張りを見せています。発表する時は原稿も見ずに自分の言葉で伝えているところは立派です。最近ではその内容をスクリーンで示し、言葉に加えて視覚的にもこれまで以上により的確にその内容が全校生徒に伝わるように工夫しています。



そして今回の生徒集会が何よりも良かったのは、3年生が参加する最後の生徒集会ということで、3年生のために**「3年生わくわくクイズ」**を企画してくれたことです。その内容は、3年生に関わる3択クイズでした。全校生徒でクイズを楽しみました。ナイスな企画で盛り上がりを見せました。クイズが終わると1、2年生が3年生に対して「ありがとうございました。」の感謝の言葉を述べ、生徒集会を終了しました。さながら、ちょっとした送別会の風でもあり、とても良かったと思いました。1、2年生は進級に向けて、3年生は進学に向けて意識が高まったものと思います。

総合的な学習の時間の活動及び取組成果発表会（3年生）

2／26（木）に、3年生の本年度の総合的な学習の時間の活動及び取組成果の発表会がありました。これまでは瑞中発表会の中で各学年が発表していましたが、本年度からは各学年の状況に応じて発表会を実施しています。1，2年生においては既に12／13（金）の授業参観の中で発表しています。そして今回、公立高校の一般入試を終え、満を持して3年生が発表してくれました。

3年生のテーマは「ふるさとの未来を創ろう」で、「ふるさと活性化」を課題として瑞穂町のために自分たちにできることを考え、実践しようと取り組んできました。具体的には、①海班、②子育て支援班、③特産品班、④自然環境班の4つのグループに分かれて課題に迫る取組を行いました。主な内容を紹介します。

①海班では、有明海の豊富な魚資源を利用し、「魚釣り」を中心に据えた活性化策を考えました。釣り場の紹介や釣り方等の紹介動画を作成し、PRを図ることを提案しました。

②子育て支援班は、雲仙市の子育て支援事業や他市の取組紹介、実際の保育園実習での学び等を伝えてくれました。子育てには頼る場所があり、人がいることが大切だと改めて気付かせてくれました。

③特産品班は、米やイチゴの紹介から始まり、代表的なお茶やお菓子の紹介がありました。それらを踏まえて、お茶を使ったお菓子、丸ボーロを使ったハンバーガー等、数点の新しい商品を開発しました。

④自然環境班は、現状を知るために西郷川及び周辺の掃除を行いました。そのことを踏まえ、環境を守ろうとポスターを制作・掲示、そして魅力を伝えようとPR動画を作成・紹介しました。

今回の発表会の目的の1つに、「1，2年生を参観させることで興味を持たせ、来年度の取組へ向けて意識を高める。」がありました。そこで、3年生の発表には1，2年生も参観させると共に保護者及びお世話になった各事業所等の関係者様もご案内しました。3年生も発表に気合いが入ったと思います。1，2年生も真剣に参観し、振り返りアンケートでも「とても良かった。」が100%に近い結果でした。また、地域活性化のために取り組みたいこととして、「雲仙（瑞穂町）の有名な食べ物や、景色などを多くの人に知ってもらうために、チラシを作る。アレンジをしたりする。」「地産地消を進んでこれからも取り組みたいです。」「瑞穂町の良いところをPRして他の街から移住してきて瑞穂町の人口が増えるようにしたい。」「瑞穂町のマップを作り、特産品やパワースポットをまとめて、たくさんの人に魅力を知ってもらいたいです。」「特産品を使い、アレンジレシピを作る。」等々がありました。3年生の発表する姿、内容をしっかりと受け止め、次年度さらにスケールアップしてくれることでしょう。

今回の発表会とは別に、3年生の総合的な学習の時間の最後の取組として、翌日の2／27（金）にラオスと3年教室をオンラインで結びLIVE授業（講義）を行いました。

講師は**ラオス・ルアンパパーン国立博物館の学芸員で、JICA・シニア協力隊の宮脇　好和さん**にお願いしました。「自分の将来目指すことや現在学んでいることと、どのような関りがありそうか考えよう。」を目標として、海外協力隊のことやラオスという国、ルアンパパーンの町について、協力隊員の活動の様子等、現地から熱心に伝えていただきました。多くの生徒が、「ラオスを初めて知った。」「ラオスに行ってみたくなった。」という感想を持ったようです。中には、「先進国の私たちが発展途上国の成長のために色々な視点で協力していくことが大切で、国の違いに関係なく協力していくことが世界の発展と平和への第一歩になると感じました。」といった感想もありました。今回の授業での気づきが3年生一人ひとりの将来へ何らかの形で繋がっていくことを期待しています。